



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会

6月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2012年(平成24年) 6月 1日(金)

NO. 130

倫理文化講演会

五月二十日(日)午後四時

から六時までホリデーイン・トールレンスに於いて文化講演会が開かれた。「感動が心の扉を開く」をテーマに講師は田形健一常任理事。会場にはしきなみ短歌会員、秋津書道会員の作品が展示されている。田形常任理事が「開始の式」を取り全員で記念撮影。講演会の開始前、トイフェル佳江さんのフルート演奏が会場を包んだ。司会は土佐美代子さん。

川田薫会長の挨拶、障害児を持つ「手をつなぐ親の会」高齢者を助ける「NAIS」の紹介の後「子ども短歌コンクール」表彰式を行なった。次いで、尾崎泰斗君の朗読。障害を持った大好きな姉の死を悼んだ「いのち」というエッセイである。

田形常任理事の講演は、日常の当たり前なことに感謝する大切さを説き、明るい「ハイ」や挨拶の練習などを取り入れ、楽しく心に沁みだ。会場は始終和やかな雰囲気、終わった後も話しあう人が多く見られた。

(参加者百二十八名)

ロスによせて

倫理研究所総務局長

田形健一

南カリフォルニア倫理の会の皆さん、こんにちは。その後もますますお元気で過ごしていることと思います。

総務局長としての職務上、いつもはデスクワークの日々ですが、今月は珍しく多くの出張する機会に恵まれました。

まず、四月二十八日から五月五日までの八日間、中国へ行ってきました。その間、四月三十日から五月二日までの三日間は中国内蒙古自治区のクブチ沙漠で植林作業を行いました。日本から青年が三十一名、中国は地元内蒙古大学に加え、北京や浙江省の大学から日本語を学ぶ大学生を中心に八十五名、倫理研究所のスタッフを含め総勢百二十四名が参加しました。日本と中国の若者は共同でクブチ沙漠に木を植え、語り、歌い、踊り、日中の青年交流が活発に行なわれました。

倫理研究所は創立五十五周年を記念して、一九九九年四月より中国内蒙古のクブチ沙漠に「地球倫理の森」を創成

する事業に着手し、今年で十四年目を迎えました。

今、延々と広がる沙漠が緑の大地へと変貌しつつあります。下草も生え、昆虫の他、野ウサギやハリネズミといった小動物も姿を見せ、鳥も飛んでいます。

クブチ沙漠の緑化事業は、広大な沙漠を緑の大地にしようと、遠大な理想を掲げて行動を起こした、当時八十四歳の「沙漠緑化の父」遠山正瑛先生によつて一九九一年にスタートしました。先生の口癖は「やればできる。やらねばできない」でした。継続は力なり。物事を成し遂げる秘訣は、出来上がるまで止めないことです。

五月十二日から十三日は福岡県北九州市で行なわれた「創始者生誕百二十年記念式典」に参加し、日本全国の会員代表約四百五十名の皆さんと一緒に福岡県豊前市にある創始者の生誕地を訪ねました。

そして、五月十七日から待望の南カリフォルニア倫理の会へ初めての出張。

川田薫・末子ご夫妻、梅本豊造・和子ご夫妻、滝川政和・

歌子ご夫妻、前田グレースさん、門園美枝子さんはじめ会員の皆様の温かいお心遣いとお持て成しに心から感謝申し上げます。

倫理文化講演会は土佐美代子さんの渾身とした司会によつて、トイフェル佳江さんのすてきなフルート演奏で幕を開け、しきなみ子供短歌コンクールの表彰式、尾崎泰斗君の「命」と題した感動的なスピーチ、そして講演と、充実した内容の講演会でとても嬉しく思いました。

とりわけて、南カリフォルニア倫理の会の老若男女の会員の皆さんが終始和やかに笑顔でお世話していらつしやる姿が印象的でした。

「アメリカにも純粋倫理を学んでいる会友がいる」ということが、私たち日本の会友にも大きな励みであり、誇りでもあります。

今回の倫理文化講演会を機にさらに倫理普及にご努力くださいますよう、切に願っております。

南カリフォルニア倫理の会の会員の皆様のますますのご健勝をお祈り申し上げます。

丸山敏雄先生・生誕一二〇年
を祝う

倫理研究所国際部長

新原隆一

南カリフォルニア倫理の会の皆さん、おはようございます。その後もお変わりなく活躍のこととお喜び申し上げます。

日本列島の桜前線は、すでに北海道まで上陸し、今年の桜も終わりを迎えました。開花は例年より遅かったものの、この桜も満開に咲き誇り、日本人の心に豊かさをもたらしてくれました。これからは青葉若葉の新緑が目を楽しませてくれます。

さて、五月五日は創立者、丸山敏雄先生の生誕一二〇年の誕生日でした。一八九二年の端午の節句に福岡県豊前市で誕生されました。生誕一二〇年を記念して、月刊誌『倫理』六月号の「創立者と私」のページに私の文章が掲載されました。海外の皆さんは読んでいる人が少ないと思いますので、ここに掲載して紹介したいと思います。

「不思議な縁」

私が純粋倫理と出会ったのも

縁あって倫理研究所に入所したのも両親を通してのことであつた。

昭和三十九年一月、母の実家に年始の挨拶に出掛けた父は、そこで月刊誌『新世』に約十年ぶりに再会した。母方の叔母が、当時川内支舎の「朝の集い」に通つて倫理を学んでいることを知り、父は何の躊躇もなく翌日から「朝の集い」に参加するようになった。

それには伏線があつた。終戦後、軍隊から復員してきた父は、私が生まれて間もない頃農業を営みながら、近所の若い仲間と「みのり会」という名称の勉強会を開き、地元の名士などの話を聴いて自己向上に努めていた。そこに時々お呼びして、その度に感動させられていたのが、後に私の母校となる鹿児島県立川内高等学校の永吉徳保校長の話だつたという。母校の歴代校長を調べてみると、永吉先生は昭和二十四年四月から二十九年までの五年間、川内高校の校長を勤めておられる。広島高等師範学校の後輩に当た

る永吉校長は、先輩である創立者丸山敏雄先生と親交があり、校長会などで上京の度に倫理研究所に立ち寄つておられたようである。そして『新世』や『万人幸福の栞』などを取り寄せ、鹿児島島の知人・友人に頒布し、父の「みのり会」でも感動的な倫理の講話をしておられたのであろうと推測される。

ここに一つの証拠が残っている。創立者が『新世』昭和二十四年六月号に「時間」と題する論文を発表された。それは現在、単行本『清き耳』に収録されていて、その一〇六頁には次の一節が紹介されている。

「畏友・永吉徳保氏は、今、鹿児島県川内高等学校長であるが、今回、CIEと文部省の共同主催で教育長等の第二回講習会に出席して、一、二、三月と三カ月にわたつて小金井の新世寮から、会場たる東大に通つておられた。……」

その当時、毎月六の日に行われていた「新世倫理講座」で、創立者と共に数回にわたつて研究発表をされたことも記録に残っている。また、昭和二十六年

一月号から5回連続で『新世』に永吉校長の「教育講座」が連載されてもいる。

今、振り返つて思うと、新世会発足に伴つて月刊誌『文化と家庭』が創刊されたのが、昭和二十二年十月のこと。その『文化と家庭』が現在の『新世』に改題されたのが昭和二十四年三月号からで、父は、まだ「朝の集い」も始まつていなかった倫理運動草創期のその頃、永吉校長を通じて（面識はなかったけれども）創立者と繋がっていたこととなる。昭和二十九年の校長退任後、永吉先生が関西方面に転居されたことから、父との倫理交流は途絶えてしまったようである。

十年のブランクを経て、両親が「朝の集い」に出席するようになったのは、私が高校一年の三学期であつた。私を含めた四人の子供には何も告げず、黙々と夫婦で通い続けていたが、一年後に地元で開催された「青年倫理講演会」に初めて誘われ参加したのが、私と純粋倫理との初めて

の出合いである。

その講演を聴いて震えるほどの感動を覚え、翌日から両親と一緒に「朝の集い」に通うようになった。高校生活を送りながら青年活動にも参加して一年近く経った頃、研究員として倫理研究所入所を勧められた。魅力ある仕事には思えたが、倫理の学びも浅く、十八歳になったばかりの私にはとても出来る仕事とは思えなかった。迷いに迷って断念しようとしたとき、父が決定的なアドバイスをしてくれた。

「丸山敏雄先生の教えは間違いない。今はまだ世に知られていないし、倫理研究所の組織も小さく会員も少ないが、これから多くの人々に感動を与え、倫理運動は日本だけでなく海外まで広がる可能性がある。この幸福道を世界に拡げる仕事は男の最高の仕事ではないか」と。

この一言で決心がついて大学入試を取りやめ、倫理研究所入所を願いだした。今から四十六年前のことである。父の予測どおり、国内の家庭倫理の会、倫理法人会は飛躍的な発展を遂げ、

海外にも純粹倫理に共感する仲間が増えつつある。そして現在

国際部を担当して十年、毎月のように海外を飛び回り純粹倫理を伝える私を、今は亡き父はどのように見ているだろうか。また、創立者と父を純粹倫理で繋げて頂いた（入所四年後に一度だけお会いしたことのある）永吉校長は。そして、創立者丸山敏雄先生は。

今日の私があるのは創立者によって徳の高い人々の結びつきによることを確信する。これからの私の役目は自ら善を行ない徳を積み、いかに多くの人々に恩返しするかにある。

朝の講話

五月二十日（日）午前八時半～九時半の「朝の集い」は田形健一常任理事の講話であった。

今年丸山敏雄先生ご生誕百二十年だが東日本大震災、日本経済の低迷を考慮して祝典は会員代表だけの小さいものにしたという説明があった。

田形先生が『職場の教養』に掲載されていた記事を読んで

十数年続けている実践がある。毎日、一、十、百、千、万の實踐である。

万・活力テンポで一日一万歩歩くこと

千・一日千字書くこと。指を

使う手書きは脳の活性化をはかります。

百・一日百回深呼吸すること。

と。吐く息が先、吸う息が後です。出し入れ、やりとり、貸し借りなど大自然の法則に従います。

十・一日十回笑う。腹から笑う。心を明るくするトレーニングです。

一・一日一回ほめる。言葉は生きています。後味の良い言葉を使いましょう。

有意義な講話であった。私達も早速今日から実践しよう。

五月六日の倫理教室のボードに「ほがい」と書いてありました。ああ丸山敏雄先生の誕生日が五月五日であるのでその記念日なのかと思いました。しかし今年は特別です。生誕百二十年目のお祝いなの

ほがい

「ほがい」は古語で「祝う」の他に「結ぶ」という意味があります。倫理研究所では「私たちの命の元である父母や、数え切れない多くの人たちに結ばれている恩を深く自覚し、感謝し、これを喜び、祝うのが『ほがい』である」と意義を明示し、丸山敏雄先生の誕生日に『ほがい』の行事をしています。

です！！

日本では記念事業がスタートしていると聞きました。わが倫理の会も皆さん持ち寄りのごちそうでお祝いしました。

川田会長のいつもながらの身が入って聞くすばらしいお話の後、五月二十日の倫理文化講演会にむけての話し合いがあり、予定時間を過ぎてしまうほどで心が引き締まるのを感じました。

その後食べた皆さんの持ち寄りの五穀米のごはん、きゅうりのつけもの、ちくわの揚げ物、お手製のイチゴのジェロ。などなどとてもおいしくいただきました。総勢三十二名の出席でした。（なぎ川佳代記）

♪ ♪ ♪

「ほがい」は古語で「祝う」の他に「結ぶ」という意味があります。倫理研究所では「私たちの命の元である父母や、数え切れない多くの人たちに結ばれている恩を深く自覚し、感謝し、これを喜び、祝うのが『ほがい』である」と意義を明示し、丸山敏雄先生の誕生日に『ほがい』の行事をしています。

子ども短歌コンクール

文化講演会のプログラムの一つとして「子ども短歌コンクール」表彰式を行なった。応募者六十七名の内、表彰されるのは上位六名。八歳の少女から十六歳の高校生まで。

司会が入選者の名前と短歌を讀み上げスクリーンに短歌が映し出された。会場からは感嘆の声があがる。綺麗な花のコサージュを胸に付けた子どもが舞台上に上がり、川田薫倫理USA会長が表彰状と副賞を手渡した。会員二人がしきなみ短歌会の朗詠を最優秀賞二首で歌った。メロデーは「ハッピーバースデー ツーユー」と「幸せなら手をたたこう」である。閉式の言葉は司会のホン史子さん。

しきなみ短歌会を一般に知ってもらうためのコンクールという川田会長の案はたくさんの人に喜んでもらえる結果となった。これを機に子どもたちが、短歌が生活を豊かにするということを知り、興味を持ってくれることを願ってやまない。

（参加百二十八名）

子ども短歌授業

四班 摺木洋子

「子ども短歌コンクール」の企画が一月に上がった時、私は直ぐに以前教師をしていた日本語学園協同システムに御願いに「行こうと思いました。協同システムは五つの学園から成り立っています。」

田中雅美学園長にお話ししたところ、倫理の川田薫会長も審査員となっている三月末の「お話し大会」が済んだ後ならいいです、と許可を得ました。それだと短歌コンクールの締め切りまで二週間、実質二回の土曜日しかありません。主任先生にご協力を御願いし、羅府中央学園とバレエ学園での授業の許可が頂けました。

まず、バレエ学園に行きました。小学生のクラスですが、短歌の楽しさを説明しても子ども達は短歌のアイデアがさっぱりつかめません。そこで、楽しかった思い出を絵に描いてもらいました。雪だるま、魚釣り、愛犬など、次々と絵が出来上がりました。そこで、一人づつ対面

形式で絵の説明をしてもらい、子どもの気持ちを表現する言葉を拾い上げて書き出し、その子が納得できる短歌にしあげる作業をしました。

時間はかかりましたが、子ども達は自分の短歌ができたのに大満足でした。「短歌はアカメラなんだよ。ずっと後にこの短歌を讀むと、その時それが短歌の力なんだよ」と説明すると子ども達も分かったようでした。一つの短歌を「森のくまさん」のメロデーで歌うと皆に、自分のも歌ってとせがまれ、全員のを歌って楽しかったです。

次の土曜日は羅府中央学園に行きました。会員の尾崎よしみさんが学園の父兄なので、私が中学・高校のクラスで短歌授業をしている間、小学生のクラスで絵を描かせるお手伝いを頼みました。中学高校クラスを終えて、小学生のクラスに来て、又、対面形式で短歌を作りしました。こうして、四月十五日の締め切り間に二十三人の短歌

を提出することができたのです。これを機に子ども達が短歌に興味を持ってくれることを心から願います。

田中雅美学園長、主任先生方、大変お世話になりました。ありがとうございました。

羽島照子さんに感謝

羽島照子さんはガーデナ仏教会付属日本語学園で四十年以上の長きに亘って子ども達に日本語を教えてきました。八十歳を迎えるにあたり、引退されたのです。「子ども短歌コンクール」の企画を聞き、短歌を出すように学園に説明に行つて下さいました。おかげで学園からは三十二人の応募者がありました。本当にありがとうございました。

『作品集』

六十七名の作者、百一首の短歌が掲載されている。子どもたちの素直な気持ちが子どもの言葉で表現されていて、大人の心をほぐしてくれる。是非読んで下さい。オフィスにあります。

子ども短歌コンクール

最優秀賞 小学校の部

長谷川友香 九歳
アメリカにきたときないたこ
いしくてそのぶんえたよ大き
なゆめを

最優秀賞 中学高校の部

朝倉巨貴 十四歳
ライバルとシューゲーム
息つまるラスト五秒の同点
キック

優秀賞 小学校の部

門田由美 八歳
うまにのりはしつてごらんた
のしいよおおきなやまがとお
くにみえる
武田・ティア ノア 九歳
しゅくだいがやつとおわつて
ゲームするお父さんとのたの
しいじかん

優秀賞 中学・高校の部

フェラル ブランドン 十二歳
バスケット最後のショットミ
スしても頭を上げるもつと練
習

尾崎泰斗 十六歳
人生にバスケットがあればまんぞく
だこれさえあれば何もいらな

佳作 小学校の部

長谷川京香 七歳
チアリーダーくるくるまわつて
たのしいなじしんももてたみん
なのまえで

石井みつき 十一歳
魚にはエラこきゆうなどヒレ泳
ぎすごくきれいださすが魚だ
ワインバーガー
未央 十二歳

佳作 中学・高校の部

春が来たさくらの花がさいてい
るピンクの花が風でふわふわ
ロドリゲス ケント 七歳
バツティングうつぞとおもうバ
ットふるはやいスピードホーム
ランになれ
ベンジャミン

まつばやし 七歳
かぜひいたせきどめのんだせき
とめるつぎの日またでたはやく
よくなれ

佳作 中学・高校の部

クレス トーマス 六歳
ゆきやまでかぞくでつくるゆき
だるまつめたいけれどたのしか
ったよ

金城ただのり 十一歳
とうさんとハワイにいつてつ
りをした大きな魚いっぱいと
れた

志藤光太 十一歳
さむい日に犬三匹とさんぼす
るたいようあびてあたたかく
なる

林さき 九歳
バスケットシュートをきめて
うれしいなティームメイトも
みんなよろこび

尾崎理子 十二歳
ねこちゃんはふところ入りあ
ったかそうわたしもあんなき
ぶんになりたい

中島あかり 十四歳
将来とてもこわいよでもでき
るがんばっていきる楽しく進
む

佳作 中学・高校の部

ハサウエイ
ダニエル 十五歳
暑い部屋汗がいつぱいレスリ
ング痛み無視しろ負けてはい
かん

尾崎宏乃進 十四歳
菊の花姉に一本供えたら夢に
出てきて楽しいひととき

感謝

滝川政和さん・舞台上の横幕、
あの立派な大きな字を書いて
下さいました。
大川敏子さんご主人・写真
を全て引き受けて下さいまし
た。
前田トムさん・パワーポイン
トで大きなスクリーンに短歌
や倫理の活動の映像を映して
下さいました。
摺木洋子さん・短歌コンクー
ルで表彰される
子ども達の胸に
つけるコサージ
を作して下さい
ました。
ありがとうございました。

宮城喜那 十七歳
黒いねこ事故で足を失って二本
の足で元気に生きる

松元倫江 十二歳
雨上がりかかれてた野原に生き生
きと緑の草がはえはじめてる

感謝

図書販売

講演会当日の図書の売り上げは
二十四冊、二百五十二ドルです。



おめでとうございます

『しきなみ』五月号

四席 梅本豊造 群螢集（東京）

入選 松永典子 群螢集（東京）

入選 摺木洋子 飛雲集（西東京・海外）

『秋津書道』五月号

入選 梅本豊造 高等部（東京）

入選 長谷川松子 高等部（東京）

入選 前田グレース 一般部 行書（東京・東部）

入選 トイフェル佳江 一般部 楷書（々）

入選 竹内康子 一般部 楷書（々）

中村正生先生、最後のご出張

中村正生先生は今回のご出張でアメリカ担当を終えられます。二〇〇七年九月から五年が過ぎました。月日の経つのは何と早いのでしょうか。皆さん、どうぞ行事に出席してください。

六月二日（土）午前十時～十二時

しきなみ短歌会（オフィス）

六月二日（土）午後一時三十分～三時三十分

秋津書道（オフィス）

六月三日（日）午前八時半～

講話兼セミナー「生活の中の美」

懇親会バーベキュー

先生に朝の講話の時間からセミナーをして頂きます。それから早めに門園さんのお宅に移り、ランチBBQをします。

中村正生先生の講話セミナー

『生活の中の美』というテーマです。

なお、セミナーの後、門園美枝子普及副部長宅でバーベキューをします。倫理会員全員で楽しく頂きましょう。全部用意してありますが、テーブルを出すお手伝いを御願ひします。

展示の書



長谷川松子さんの作品です。秋津書道会員。文化講演会に展示された「華」です。

しきなみ短歌

吾子選ぶドラマ学部専攻にそれ学問かと首かしげるも 塩出笑子
寒い日と汗ばむ日がくりかえす気候異常にふりまされる 橘高比呂美
ひな祭り時を合わせて満開の桃の木は告ぐ春が来たよと 伊澤潤子
三歳の孫（うまご）は母の椅子にのり大きな声で「ハッピーバースデー」 梅本豊造

オリビアの天使のような寝顔みて反抗期故のおいた忘れる 梅本和子

ころころと笑いころげる孫娘六人六個の福を持ちくる 門園美枝子

芝の上に積もりし霜のその丸味静かに緑を隠しておりぬ ホン史子

耐えてても半身不随にすべもなく耐ええぬ夫の嗚咽の声きく 松永典子

キッチン戸棚を今日は整理しよう春の陽の差す日曜の朝 草野律子

鶏は日の出の時刻気づくらし声高らかに谷間で鳴けり 摺木洋子

年末に吾娘が届けたアマリスいのちいっぱい咲きてほこりぬ 山内洋一

うかぬ日は座禅を組んで無になりて取り除きゆく心の不安 松元依子

母もまた祖母の前では娘なり吾には見せぬ顔かいまみる 大川敏子

老いづきし時を思いて弱音吐く夫を励まし共に書を書く 滝川歌子

梅桃と春に先だち咲き始むも春は名のみ肌寒きあさ 奥本洋子

「早春賦」の歌口ずさみ散歩する頬につめたき如月の風 杉野和子

家失くし親を失くした子供達心の奥の悲しみ見せず 長谷川松子

さわさわと風波立ちて汐満つる石畳なるパラチの路地に 伊勢田豊

夜の海に絶えることなく点滅す赤き光は牡蠣の養殖 中村正生